



謹賀新年！ 皆様本年もよろしくお願いいたします。  
 昨年は台風による甚大な被害が発生し、未だ困難を余儀なくされている方も大勢いらっしゃる事と存じます…一日も早く安堵される日が訪れる事を心からお祈りしております…  
 今年一年、また「瓦版」を企画しますがお付き合いをお願いします…結びに、本年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



# 瓦版 新年号

発行 (株)カネマタ工務店  
 TEL 025-792-2560  
 FAX 025-792-7102  
<http://kanematak.com>



## 「魚沼の自然」今回はミスカマキリ

農業用水路の改修などにより、近年ほとんど姿を観なくなった淡水魚や水生昆虫などの、生物の現状を調べるこのシリーズ…今回は「ミスカマキリ」がテーマです。

この水生昆虫は「カメムシ目・タイコウチ科」に分類されます…体長は40～50mmほどで、水田や池沼の水中に生息しますが、タイコウチなどに比べて深い水深を好む傾向があります。日本全域から台湾・朝鮮半島・シベリア・中国から東南アジアと広い範囲に分布しています…空気呼吸をするため2本の鞘状の「呼吸管」を持ち、その長さは非常に長く本体長ほどもあります。また、細長い体型から「飛行能力」は水生カメムシ類の中では高く、生息範囲を広げるのに有効で市街地近くの沼でも観察されることがあります。食性は「肉食性」で他の昆虫や小魚・オタマジャクシなどを餌とします…水中の水草や枯死植物体などに付着しそれに擬態して静止しつつ、捕食対象の到来を待ち伏せ鎌状の前肢で獲物を捕え、口吻を突き刺し消化液を送り込んで溶けた肉液を吸う(体外消化)。消化には非常に時間が掛り、大きな獲物だと15時間以上も採餌し続ける。



## 「初詣」のあれこれ…

初詣(はつもうで)とは、年が明けてから初めて神社や寺院などに参拝する行事です。元々は「年籠り(としこもり・としごもり)と言い、家長が祈願のために大晦日の夜から元日の朝にかけて氏神社にこもる習慣でした…それはやがて大晦日の夜の「除夜詣」と元日の朝の「元日詣」の2つに分かれ、元日詣が今の初詣の原型になりました。

江戸末期までは氏神社に参拝したり、居住地から見て恵方に当たる社寺に参拝する事が主流でしたが、明治中期になると、単に社寺に「元日詣」を行うだけの初詣が習慣化したと言われています。また、氏神や恵方に関係なく有名な社寺に参拝する事が一般的になったようです。

ご当地では除夜に一度氏神に参拝し、元日に再び参拝する「二年参り」の形態が多いですね…「初詣」では、社寺に行ってお守りや破魔矢・風車・熊手などを受けたり、絵馬に願い事や目標を書いて納めたりして、今年一年が良い年であるように祈ります。この時に昨年のお守りや破魔矢などを納め、焼いてもらうのが一般的になりました。

初詣の対象は神社・寺院のいずれでもかまわないとされています…これは明治時代初期に「神仏分離」が行われる前は、神道と大乘仏教ならびに祖霊信仰が一体化した神仏習合による信仰が一般化していたためです。初詣には特に定められた規定はありませんが、「柏手」の回数など参拝の作法は違う所もあるので注意しましょう…



## 01月11日は「鏡開き」です。

正月の間、年神様の拠所になっているのが「鏡餅」…そのため年神様がいらっしゃる松の内の間は飾っておき、松の内が過ぎたら下げて食べ、年神様の力をもらい1年の家族の無病息災と福を招き入れる事を願う行事として「鏡開き」を行うようになりました。

もともとは武家から始まったとされ、鏡餅に刃物を使う事は「切腹」を連想させますので禁物とされました…そこで、手や木槌で割る訳ですがこの「割る」も縁起が悪い言い方となりますので、その逆の「忌み言葉」の「開き」を当て「鏡開き」となったようです。

また、鏡餅を食すことを「歯固め」と言い硬い物を食べ、歯を丈夫にして「年神様」に長寿を願う行事とも言われています…では何故11日になったかと言いますと、昔は20日(20日正月)をこの行事の日としていましたが、徳川三代将軍「家光公」が04月20日に亡くなったため、月命日の20日を避けて11日になったとも言われているようです…

もう一つ…祝い事の際に振舞われる「樽酒」を開ける事を「鏡開き」と言いますが、何故そう言うのか…これは樽酒の蓋が酒造界で「鏡」と呼ばれていたからだそうで米から出来る「日本酒」は神様にも献上される程神聖なものとされていたため、神事を行う際に神様に供えられそれが終わると参列者で酒を酌み交わして「祈願」の成就を願う風習がありますので、「割る」ではなくやはり縁起の良い「開く」と言う表現が使われています。

昔は餅屋さんに注門したり自前で餅を搗いたりしてましたが、近年はビニール包装の鏡餅が主流となり便利になりましたが、子供達に「パックを開く」のではない事をしっかり伝えたいですね。

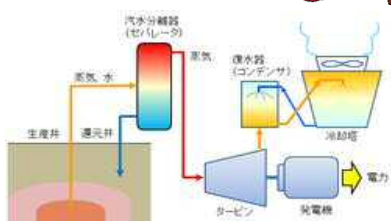
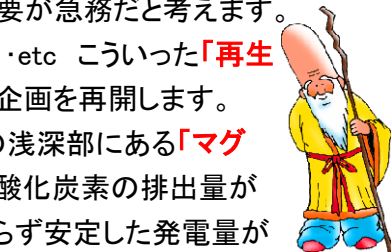


## 再考…「再生可能エネルギー」の話

深刻な「環境破壊」を抑制するためには経済活動で使用するエネルギーを考える必要が急務だと考えます。化石燃料への依存を切替え温暖化ガスを放出しないコストや安全管理が容易である…etc こういった「再生可能エネルギー」を使ったエネルギー供給について、その現状を調べ直したいと思い企画を再開します。

今回は、火山列島である日本では有望な「地熱発電」についてです…これは地下の浅深部にある「マグマ溜」で熱せられた高温水・水蒸気を採取して発電する方式です。これのメリットは二酸化炭素の排出量が火力発電に比して少ない。燃料の枯渇、高騰の心配が少ない。天候・季節・昼夜によらず安定した発電量が期待出来る…など。デメリットとしては、日本では火山帯に施設が置かれるため、蒸気の採取に伴い火山性ガスが同時に発生する事がある。地下の貯留層との間の熱水の出入りにより微小な地震が発生する事がある。海外の事例で、温泉資源に影響を及ぼす事もある。発電時のエネルギー効率が低い…などです。

日本における地熱発電の発電量は、2010年の段階では約530MWで総発電量の僅か0.2%で、これは中規模の「原子炉」1基分の発電量にしか届きません。地熱発電の普及が低迷してきたのは、計画に際する国定公園・国立公園の規制、温泉地からの反発が主な理由と言われています。しかし、我が国の地熱発電の潜在資源量は約33GWにもなると見積もられており、化石燃料の資源に乏しい日本としては貴重な国産エネルギーともなるため「地熱発電の開発を積極的に進めるべき」との指摘もあります。尚、日本の地熱発電の発電量は世界で6番目(2007年調査)との事です…



1月 睦月 2020年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水 元日 赤口	木 初夢 先勝 地鎮祭 上棟吉日	金 友引 地鎮祭 上棟吉日	土 御用始 先負 上棟吉日	日 仏滅 三熾亡	月 小寒 赤口	火 七草 先勝 地鎮祭 上棟吉日	水 友引 地鎮祭 上棟吉日	木 先負 三熾亡	金 仏滅	土 鏡開き 大安 地鎮祭 上棟吉日	日 赤口	月 成人の日 先勝 地鎮祭 上棟吉日	火 友引 地鎮祭 上棟吉日	水 小正月 先負 上棟吉日	木 仏滅	金 大安 地鎮祭 上棟吉日	土 赤口	日 先勝 地鎮祭 上棟吉日	月 大寒 友引 地鎮祭 上棟吉日	火 先負 三熾亡	水 仏滅	木 大安 地鎮祭 上棟吉日	金 赤口	土 先勝 上棟吉日	日 友引 地鎮祭 上棟吉日	月 先負 上棟吉日	火 仏滅	水 大安 地鎮祭 上棟吉日	木 赤口	金 先勝 地鎮祭 上棟吉日